

## 令和7年度 教科研修会Ⅱ 社会科 授業の様子

単元名	飛鳥・奈良時代の特色を捉えよう		
授業学級	I年C組 (35名)	授業者	内藤 大貴
主眼	奈良時代の人々の生活に格差があった理由について考える場面で、資料を基に身分の違いに着目して、当時の人々の生活と関連付けて考えたり、特に負担が大きいと考えられる税を友と話し合ったりすることを通して、律令国家において、庶民は重い税を負担し、貴族は豊かな生活を送ったことで、格差が広がったことを理解することができる。		

### 【本時の様子】

生徒は、個人追究でこの時代には貴族や役人、一般の人々や奴婢という身分があったこと、租・調・庸、兵役などの税があったこと、身分によって納める税が違ったことなど、分かったことを全体追究の場でも話し合いました。A生の「このような様々な税があることを負担に感じたから、逃亡する人や戸籍を偽る人が出た。」という発言から、教師は、「さまざまな税の中でも、特に負担が大きいと考えられる税はどれだろうか。」と問い返しました。生徒たちからは、「6歳以上の男女からいきなり口分田を渡されたり、不作でも稲を納めたりしないといけないから、租が大変だ。」「調・庸は都まで何日もかけて布や特産物を運ぶ必要があり、亡くなってしまう人もいたから厳しい税だった。」「防人は3年間も家族から離れなくてはならないし、敵が攻めてきたら危険だから防人ではないか。」などの意見が出ました。資料を根拠として考える姿がありました。

次時は、「律令国家は本当によい国家だったのだろうか」について、これまでの学習を基に話し合います。貴族にとってはどうなのか、一般の人々にとってはどうなのか、生徒と共に多面的・多角的に考察していきたいと思えます。



生徒と教師の対話の様子



友との意見交換の様子



全体追究の様子

**単元の学習問題**  
長く続いた平安時代につながる飛鳥・奈良時代は、どのような時代なのだろうか。

**学習問題**  
なぜ人々の生活にはこんなに格差があるのだろうか。

**予想**  
身分の違い  
税による

**学習課題**  
身分の違いや税に着目して生活と関連付けて考えよう。

〈人々の生活に格差があったのは〉

```

    graph LR
      A[人々の生活に格差があったのは] --> B[良民]
      A --> C[役人]
      A --> D[一般の人々]
      A --> E[奴婢]
      B --> F[租]
      C --> F
      D --> G[調]
      E --> G
      F --> H[税免除]
      G --> I[兵役]
      G --> J[衛士]
      G --> K[隊]
      
```

特に負担が大きいと思う税  
6歳以上は早い、不作は納めず

2ヶ月と分けて都に運ぶ  
布・特産物は貴族のために

武器食料を携帯  
亡くなるおそれがあった

本時の板書